土曜講座だより
題字：故末川博名誉総長

第４５４号
2014年6月20日発行
立命館大学衣笠総合研究機構
〒603-8577 京都市北区等持院北町 56-1

変わり続けるアフリカ

７月１２日　ソマリアにおける紛争とソマリア沖海賊問題

神戸学院大学法学部　教授　杉木　明子

海賊は古くから「人類共通の敵」とみなされ、海賊問題を適切に対処することは政治指導者にとって重要な課題であった。アデン湾・ソマリア沖では、1990 年代に海賊問題が発生し、2007 年に海賊発生件数が急増した。ソマリア沖海賊問題の主な対策として、①海上警備と海賊の処罰に対する国際協力、②周辺諸国による海賊の取締り能力の向上、③ソマリア国内の取締能力向上と統治・司法機能の回復が必要であると考えられている。既に①と②に関する取り組みは進展し、一定の成果を収めている。しかし海賊問題を根本的に解決するために不可欠な③に関しては様々な問題が存在している。現在のソマリアは北西部の「ソマリランド共和国」（国際的には未承認）、北東部のプントランド、および南部という 3 つの地域に分かれている。2012 年に発足した連邦政府は国際的には合法な「中央政府」と位置づけられているものの、全土を実効的に支配していない。

本講座ではソマリア海賊の実態とソマリア情勢を説明したうえで、海賊問題解決に不可欠な統治・司法機能の回復を実現するための「国家建設」の課題を示し、今後の対応を検討していきたい。

７月１９日　「民主化」から 20 年を迎えた南アフリカ－変化と現状－

日本貿易振興機構アジア経済研究所　副主任研究員　牧野　久美子

南アフリカ共和国でアパルトヘイトが撤廃されてから、今年で 20 年になります。今年 5 月に行われた選挙では、アパルトヘイト後に生まれた世代が、初めて選挙権を行使しました。

アパルトヘイト後、最初の大統領を務めたネルソン・マンデラ氏は、「虹の国」の理想を掲げ、国民和解と融和に努めました。世界で最も先進的といわれる、人権尊重と民主主義の理念を前面に掲げた新しい憲法も制定されました。解決不能に思われたアパルトヘイトをめぐる人種間の対立を、対話によって乗り越えた南アフリカは、世界から賞賛を浴びました。

しかし、その後の南アフリカの歩みは、20 年前の理想通りとはとてもいえません。あからさまな人種差別は、表向きはほぼ一掃されましたが、教育や労働市場における人種格差はいまも非常に大きなものがあります。加えて、ビジネスや政治の世界で成功し、富裕層となる黒人が増える一方で、まともな住居、水や電気へのアクセスもままならない人々も多く残され、黒人内部の格差も拡大しています。本講座では、アパルトヘイト撤廃による「民主化」から 20 年を経た南アフリカで、何が変わり、何が変わっていないのかを考えます。

７月２６日　アフリカを変えようとする援助者・変わるのは自分と気が付ける外部者

アイ・シー・ネット株式会社　コンサルタント　門　敦之

NGO（非政府組織）や ODA（政府開発援助）の形で、国際協力に従事しようとする者はなんらかの形で、現地の人々に変化をもたらそうとします。

そうした多くの援助者が、自分の考えている正義感や信念を元に、こうあるべきと思い（こみ）ながら、相手を変えようと努力します。私自身もその例外ではなく、外部者として時に「上から目線」になりながら、以下のような活動に携わってきました。

＊セネガルやブルキナファソでの植林や環境保全を目指す活動

＊セネガルやガーナでの病院や保健施設における医療スタッフの能力強化活動

＊タンザニアでの電力会社のスタッフの業務効率改善活動・・・などなど

こうした活動を通して、自分が描く理想像に相手を何とか近づけたいと考えてきた中で、当初は外部者のリーダシップが重要かと考えていました。けれども、次第に自分自身が変わろうとする態度、そして思い込みを捨て去り学ぼうとする態度こそが、協力相手の主体性を引き出す活動において重要なことではないかと気づき始めました。

今の時代のアフリカに対する日本の援助のあり方を、自身が体験してきた様々なエピソードを交えながら、皆さんと考えていきたいと思います。